

道路老朽化に関心を

「県会議」学生招き学習会



電磁波レーダーでコンクリート壁内の鉄筋検査に挑戦する学生ら＝12日、福井市の県立図書館

県内の工学系の学生に老朽化が進む道路や橋の点検、メンテナンスの重要性を伝える学習会が12日、福井市の県立図書館で開かれた。県コンクリート診断士の専門家らが県内の交通インフラ老朽化の特徴や点検方法などを説明

し、大学生や高専生約80人が耳を傾けた。

県内道路を管理する国、県市町、高速道路会社でつくる「県道路メンテナンス会議」が、交通インフラの老朽化に対する学生の関心を高め、将来は技術者として点検や保全

の担い手になってもらおうと昨年に引き続き開いた。

県コンクリート診断士の石川裕夏会長は、県内は海岸線の塩害や山間部の凍害などで全国的にもコンクリートの劣化が進みやすい地域であると強調。ハンマーでたたいた音による打音検査やひび割れ検査から分かること、異常が見つかった後の専門的な検査について解説した。ロボットを使った最先端の点検に関する説明もあった。

福井大、福井工大、福井高専の学生が参加。県立図書館のコンクリート壁内にある鉄筋の位置を電磁波レーダーで調べる実習にも挑戦した。福井大の梅林翼さん(工学部3年)は「建築系の仕事がしたいので、将来は自分も技術者として老朽化の問題解決に役立ちたい」と話していた。